

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別地域講習会 西北海道ブロック

開催日：2012 年 8 月 6 日（月）

場所：北海道芦別市（調査地点コード 011820）

講師：相澤・橋本・伊藤（森林総研北海道支所）

稲垣（森林総研本所）

概要

西北海道ブロックの現地調査を担当する株式会社セ・プランの 6 名を対象に現地講習会を行った。セ・プランは昨年度西北海道ブロックの調査を担当していた。参加者のうちカテゴリ A または B の調査経験者が 4 名、うち 2 名は昨年のブロック別講習会参加者で、そのうち 1 名は今年 6 月の高尾での講習会に参加していた。当初候補地としていたカテゴリ A の 011740 を前日に下見したところ林道崩壊により現地に到達できなかったため、実施場所をカテゴリ A で集合場所に近い 011820 に変更した。

9 時半に芦別市の三段滝駐車場に集合した。前日夕方に実施場所を変更したためポリ袋の記入が間に合わず、一部を駐車場で記入した。その後車で調査地に通じる作業道跡の入口まで移動した。011820 は最新の森林生態系多様性基礎調査では到達不能とされていた。事前調査により 2005 年の森林資源モニタリング調査野帳の到達経路図では調査地点とそこに通じる作業道跡が誤って隣の尾根に描かれていることが判明していたため、時間節約のために作業道跡の入口までは講師が案内した。その後は参加者がモニタリング野帳と地形を確認しながら作業道跡をたどり、約 500m の道のりを 15 分ほど歩いて調査地入口の目印に到達した。

10 時 20 分頃調査地に到着し、杭の確認とライン張りを行った。中心杭は北北西から南南東方向に延びる尾根の上であり、東側が急斜面となっていた。調査地は育成天然林でトドマツが優占し、尾根沿いは林冠が疎開してクマイザサが茂っていた。実際の調査の流れに沿って午前中に全員で枯死木調査を行い、午後は 2 班に分かれて土壌炭素蓄積量調査を行った。社内の研修も兼ねてとのことで、高尾の研修受講者が説明しながら調査を進めた。昨年度調査を経験していることもあり、枯死木調査は手際よく進められた。ライン毎に往路でラインインターセクト法による倒木・根株調査、復路で立枯木・根株の全数調査を行い、講師は一緒に移動しながら説明の補足や訂正を行った。前日からの雨は朝に止んでいたが、枯死木調査開始後に再び降り出し、雨合羽を着ての調査となった。12 時半頃に枯死木調査が終了し、雨の合間に笹原の中で昼食を取った。

13 時に調査を再開し、まず講師が土壌炭素蓄積量調査を実演した。現地講習会では参加者が主体的に調査を進めることを趣旨としているが、6 月の高尾の研修では土壌炭素蓄積量調査の実習に予想外の時間がかかったことを踏まえて、未経験者への説明は講師が全工程を実演してみせるのが良いと考えた。参加者を 2 班に分け、N 地点と W 地点で同時に実演

を行った。調査経験者は E 地点と S 地点の掘削を並行して進め、荒堀りが済んだところで実演に合流した。途中からは雨が上がり、土壌炭素蓄積量調査はほぼ雨の影響を受けずに済んだ。全ての試料採取を済ませた後、定体積試料を円筒で採れない場合のブロック採取の実演を行った。なお、マニュアルでは 0～5cm 深度はまず 30cm 四方の範囲から分析用試料を採取することになっているが、採取場所の選定に必要な定体積試料を先に採取し、残りの場所から分析用試料を採取した。N 地点の講習は 15 時半過ぎに、W 地点の講習はそれよりやや遅れて終了し、参加者はそれぞれ E 地点と S 地点に移動して断面整形以降の調査を行った。N、E 地点では L 層を採取したが、W、S 地点では採取しなかった。インベントリ調査では多少分解していても形が完全な落葉は L 層に分類しているため、人によりどこまでを L 層と見なすかの基準に揺れがある。重要なのは 50cm 四方の枠内を丁寧に採取することであり、L と F の分類にある程度ばらつきが生じるのはやむを得ない。E 地点では H 層が出現したため、堆積有機物層採取に時間を要した。また、15～30cm 深度は礫が多く、定体積試料は円筒採取を 3 回試みてもうまくいかなかったためブロック採取を行った。E 地点の作業が終了したのは 18 時 40 分頃であった。中心杭付近に一旦集合して試料や持ち物を確認し、薄暗がりの中を作業道跡をたどって下山した。駐車場所に着いたのは 19 時を過ぎていた。荷物を積み込み、講評の後 19 時 10 分頃解散した。

今回の調査地は当初予定していた地点が到達できなかったため急遽変更した。調査に入る前に管理者（国有林であれば森林管理署か森林事務所）に道路状況や作業予定等を確認することが望ましい。また、講習会の際には事前の下見が重要である。高尾の受講者の指示が適切で、経験者が多かったこともあって調査は順調に進められた。土壌調査の未経験者には堆積有機物層の区分や礫率の判定など不慣れな項目もあるので、マニュアルを再度読んで今回の調査内容を確認して欲しい。今回は調査地が道路からさほど遠くなく、明瞭な作業道跡があり道に迷う心配がなかったことから、調査が完了することを優先して薄暗くなるまで講習会を行った。調査地によっては林内を長時間歩く場合もあるため、帰路の安全を考慮して明るいうちに下山するよう時間管理に注意が必要である。



外周杭の確認



林相写真の撮影



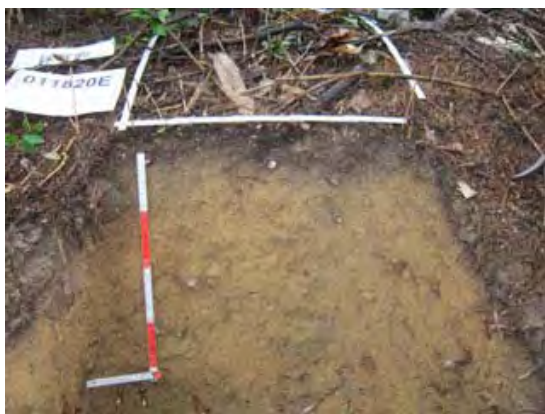
全数調査での根株の測定法の説明



ラインインターセクト法による倒木調査



N 地点での講師による試料採取の実演



H 層が出現した E 地点の土壌断面



E 地点での円筒採取



夕暮れ時に下山開始